

Tsumagari

船橋市議会議員 松下政経塾出身
つまがり俊明の船橋一直線！

Vol 72



今月の船橋一直線

誰もが行ける子ども食堂

市民の投稿ひろば

船橋の『子ども食堂』

インターン体験記

議員インターン研修を通じた成長



インターン体験記

20歳女性：上智大学2年生



市民の投稿ひろば

ふなばし子ども食堂ネットワーク代表
キタナラ子ども食堂発起人
伊藤由佳さんより

議員インターンでは、様々な角度から地域のリーダー達と出会い、温かい交流をすることができます。例えば議会、委員会傍聴はもちろん、船橋を愛する方たちが集まる地域のミーティングに参加したり、商店街の皆さんと地域のイベント運営に携わったりと、地域を深く知るきっかけが盛りだくさんです。議員さんの日頃の活動を市民の皆さんに伝える大切な仕事としてポスティングも行いました。議員さんと言えば華やかで選挙の時はなんだか派手で…といったイメージは一転、地道な活動から市民の声に寄り添う活動まで、実践的な社会勉強をさせてもらいました。議員さんって何をするの？という問いに対し、充実した答えを学び取ることができるでしょう。

その一方、未来の自治体の姿について1カ月真剣に考え抜き、全国大会を目指してプレゼン大会に出場するといういわばアウトプットの経験もしました。この船橋の問題は何か、愛すべき部分は何か、今後の船橋をどうしていきたいかといったことをインターンの仲間とヘトヘトになるまで考え、熱い議論を重ね一つのプレゼンテーションを作り上げました。意見が合わないことが多くても、歩み寄り納得できるポイントを探す。そんな毎日の訓練を通して一回り成長した自分に出会うことができます。本当に濃い2か月になること間違いなし。地元が大好きなあなた。地域に貢献したいあなた。議員になりたいあなた。議員インターンでしか味わえない深い非日常を体験し、すべての出来事から学んでみてください。



未来の自治体の姿をプレゼンする一コマ

船橋市内で初めてのこども食堂を仲間と一緒に立ち上げてから2年。後に続いてくれたこども食堂と共にネットワークを結んで1年が経ちました。

それ以前からも、女性として母親として「台所から政治を見つめる」ことを信条としてきましたがこども食堂を始めて、そこからは本当に様々な現代日本の問題点を垣間見ることが出来ます。貧困、教育、働き方、食品ロスetc…見て知り、そして活動をして、この2年の間に本当に色々なことを考え学ぶ機会を与えて頂いていることを有り難く感謝しています。

私達の活動を認知し支持して下さい具体的な支援をして下さる団体や個人、企業もあり、社会的な責任も感じるようになってきました。

例えば、ある団体はこども食堂で使用する食材を被災地の生産者から購入し、届けて下さっています。

また、船橋市へのふるさと納税の返礼品を返上して市役所を通じ、こども食堂へ贈って下さった方もいらっしゃいました。企業の中にも、市民活動を支える基金を社内事業として設立し、全社員を対象に「自分達が働(かせてもらっている)く地域へ還元する」ことに取り組んでいらっしゃる会社があることも知りました。生きたお金の使い途をより良く活かしていくことを託されているということ、より一層気を引き締めて活動していかなければなりません。

子どもの問題は待った無し、あれこれ考えあぐねてはお腹を空かせた子どもを救えないと立ち上がった私達が、今後もこの活動を長く続けていくためには地域住民一人一人の皆様のご理解と応援が欠かせません。そしてこども食堂の輪が全市に広がるように、思いを同じくする方々と手を繋いで前進していきたいと思っております。

つまがり俊明の連絡先

後援会事務所

〒274-0065 千葉県船橋市高根台6-28-12

TEL:047-401-0940

メール:toshi@tsumagari2010.com

今月もお読みいただきありがとうございました！メールなどで是非感想をお寄せください！



ん、サラリーマン、シングル
の親御さん等々。共働きの
夫婦が子どもと一緒に遊
びに来ることもあります。
名前こそ「子ども」食堂で
すが、子どもに限らず、皆
で仲良くご飯を食べ、楽し
く遊ぶことの出来る「交流
の場」だったのです。

例えば、子供たちがおじ
いさんおばあさんに昔の



遊びを教えてもらったり、
料理を習ったり教え合っ
たり、親御さん同士の繋が
りが生まれたりと、食堂に
よって多様な交流の様子
がみられます。そこから
ちよつとした助け合い・支
え合いの輪が育ち、困りご
とを相談したりと、子供
にとつても大人にとつても
心の羽を伸ばせる温かい
場所になっています。子ど
も食堂を通して、子供た
ちが繋がり、大人たちが
繋がり暖かい時間を過ご
す。そうして地域への愛情
が多世代にわたって育ま
れていくのだと思います。



誰もが行ける子ども食堂

皆様こんにちは。今回の
つまがりレポート72号は、
津曲議員事務所インタール
ン生の学生2名で執筆さ
せていただきました。2ヶ
月間にわたるインターン生
活の学びの集大成となっ
ています。ぜひ一読いただ
けると幸いです。

子ども食堂ってなに？

日本の子どもの約6人
に1人は貧困だと言わ
れています。皆さんはその
ことを身近に感じているで
しょうか？子ども食堂は、
子どもと大人と一緒に楽
しく安心して食事ができ
る場所として、市内でも広
がりを見せています。市内
の4カ所の子どもの食堂を
取材しました。

方や農園の方から提供を
受けた野菜や肉などが使
われています。食堂によっ
て運営の仕方は様々で、ご
飯を提供するタイプや一
緒に作って食べる食育タイ
プなどがあります。開催場
所も公民館の一室や、教
会、カフェなど主催者に
よって多様です。また子供
たちの学習支援や、本の読
み聞かせ、余った食材を分
けるプロジェクトなど、食
事+αの取り組みも盛ん
です。

子ども食堂は地域の未来貯金

正直、子ども食堂は貧
しい子どもたちの行くと
ころと思っていました。し
かし実際に訪ねてみると、
子ども食堂には色々な人
が訪れていました。子ど
も、おじいさんおばあさ

つまがりの考え

「民」の動きを活かす



私も2人の子どもたちと、あるいは私1人で
市内の子ども食堂に足を運んでいます。子ど
もたちと行く時には子どもたちが家庭では見
せない側面に驚き、1人の時には参加者やボ
ランティアの皆さんとの会話を楽しんではい
ます。何よりその場にいるボランティアの皆さん
の善意のエネルギーに圧倒されます。

子ども食堂のような活動の継続性のため
に自治体は何かしないのかというご意見を

いただくことがあります。私は安易にお金を出
すとか、自治体が直接的に関与していくこと
に必ずしも賛成ではありません。公金が投入
されるとなれば、安全運転が求められてしま
い、市民・民間で行っているダイナミズムが
失われてしまう恐れがあります。政府・自治
体は既にできたものを継続する「守り」が、民
間の取組みは新しい挑戦をし切り開く「攻
め」と得意分野が異なります。世の為、人の
為の取組みは、自治体や国の専売特許では
ありません。自治体としては、子ども食堂が
やっている事を妨げないで、今はそつと見守
るような関わり方こそふさわしいかと思いま
す。そして職員さん、市民の皆さんの中で共
感する人がいれば、一人の人間として、ボラ
ンティア、利用者として直接後押ししていく
ことがふさわしいのではないのでしょうか。